

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑		
所在地	岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JiyosyoCd=3370105623-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成31年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲が自然に囲まれ緑豊かな環境の中、近隣には小学校や公民館・近水園(庭園)が立地しています。当苑は、地域の文化祭に参加したり、畑で育てた野菜を収穫するなど地域や自然とのふれあいを大切にしながら、家庭的な環境の中で利用者様の残存能力を生かす出来ることは出来る限り自分でして頂けるよう自立支援に向けた取り組みに力を入れています。一人ひとりのご利用者様が、ご家族の意向に沿った生活の実現を目指し個別性のあるケアの実践に努め、その人らしい生活が提供できるよう取り組んでいる。医療面では、母体施設が医療法人でもあり、先生、看護師と密に連携し、緊急時に早期対応が出来るように体制を整えている。また、苑での看取りを望まれる時や、苑での生活が困難となり退所する場合においても情報を共有しご家族の意向に沿って支援ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは旧足守藩の風情が色濃く残る地区にあり、歴史や文化を居ながらにして感じることができる環境である。ホームの裏山には竹林、中庭にはシンボルツリーのけやきがあり、落ち着いた佇まいである。母体が医療機関であるのと看護師が配置されているので、医療面でも安心である。また安心感言えば、職員は管理者を始め男性職員が多く、女性職員と協働して融和なホームの雰囲気醸成している。「その人らしさ」を支援していくにあたって、入居者の生活歴等を知るうえで重要なアセスメントが詳細になされている。その人らしい暮らしに力を入れていることが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と本年度の目標についてスタッフ間で共通認識の下、統一したケアができるよう努めている。定期的にカンファレンスを行い確認の場を設けている。	理念とその具体的な考え方を示したものを職員が出入りする事務室に掲げている。定着して長く勤めている職員が多いこともあって、理念が業務に自然に活かされている。カンファレンスの際にも職員に繰り返し意識づけるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に公園に散歩に出掛けたり買い物や地域の喫茶にでかけている。また、地域の文化祭や催し物に利用者さんの作品を出品したりし、交流ができる場を作っている。	町内の掃除に参加したり、地区の文化祭に入居者の作品を展示したり、小学校の運動会に招待されたり等、地域の中での一員として溶け込んでいる。また、昨年豪雨の際には町内からの支援があって事なきを得た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩し挨拶、お話を交したりすることで、地域に馴染み気軽に声もかけてくれている。また、運営推進会議で現在の利用者さんの状況や取り組みを説明し理解してもらえるよう意見交換の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、ご家族の代表、町内会会長、地域包括センターの方などに参加して頂き、会議を開催し事業所の報告を行うと共に皆さんから御意見、要望を伺い法人とも話し合い改善に努めている。	町内会長、民生委員、家族代表、包括支援センター、法人からの出席を得て、意見をもらい事業所の運営に活かしている。例えば駐在所に無断外出の恐れのある人の名前、写真などを家族の了解を得て届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターの方に参加して頂き、取り組みなど報告しています。また、必要に応じて、分からない事や問題の事があればその時に助言をしてくださっている。	運営推進会議等で地域包括支援センターに様々なことを相談し、助言をもらっている。また、その時々市町村の動向や地域の情報なども伝えてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に事業所の基本的考えを伝え、御家族に拘束をしないケアに取り組んでいる事伝えている。また、スタッフ間でも定期的話し合い正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての具体的なことなどについて、契約時に家族に伝えている。また、カンファレンス等で職員間でマニュアル等も含め勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については定期的に会議を行い自分達の行為について問題はないか意見交換の場を設け話し合いを重ね再発防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では必要性のある利用者様はいない。今後、成年後見制度について学ぶ機会をもち理解を深めていく。勉強会があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全て丁寧に説明を行い、質問があれば丁寧に答えている。改定があれば御家族、利用者さん詳しく説明を行い、疑問点やわからないことがあれば納得いくまで説明を行った上で同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や希望があればスタッフ間で共有し早期に出来ることであればすぐに対応できるように取り組んでいる。面会時や電話でも報告し、要望も伺い運営に反映できるように取り組んでいる。	家族には毎月利用者の様子を便りや、また来所時に伝えている。意見箱にも家族からの意見等は入ったことがなく、職員にも要望を伝えられることはないが、家族がさりげなく言った言葉などを汲み取り、運営に活かしたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは管理者を交え職員間の意見・要望を確認し法人全体の会議時に代表者に提案している。また、日々の業務等、スタッフの意見、提案も出来る場面も提供し運営に反映している。	カンファレンスや日常の業務の中などで出た職員の意見は法人全体の会議などで代表者に伝えている。職員からの意見が管理者に伝えやすいような場づくりも心がけている。	事業所が様々な新しい情報を取りこんだり、発信したりできる環境がどうしても必要となる。ネット環境を整備するなど、業務の効率化につながるような取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、努力を認め意欲向上に繋がるよう努めている。普段から話しやすい職場作りを設けコミュニケーションの取り易い職場になるよう努めている。年に1~2回は外食もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では看護師を交えて医療面での研修、認知症の勉強会を行ったり、法人内、外の研修も参加できる機会を代表者とも連携し参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの研修会があれば参加できる機会を設け事業所以外の方と交流を深めサービスの質向上が図れるように取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があれば事前に面談させて頂き生活状態、心身の状態の把握に努めると共に、ご本人が困っていることや不安なこと、要望に耳を傾け安心を確保するための関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のこれまでの経緯や苦労などを傾聴し、また要望や不安な事、疑問などに耳を傾けるなど入居までに何度か面談を行い信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や御家族の思い、現在の状況を確認させて頂く中で、信頼関係を築きながら必要とするサービスの支援を見極め、他の事業所への必要性があればサービスの利用も含め対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が今まで暮らしてきた生活を継続できるようにサポート、または支援を行い役割を持って安心した生活が送れると共に生活の質が高められるように取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には家族とゆっくりお茶をしながら団欒ができるように支援している。また、日頃の生活の様子や状態を報告し情報の共有を図っている。月報告も行き、家族との信頼関係の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてこられた友人や近所の方、家族が、いつでも来苑出来る場を作り、関係が途絶える事がない環境作りを努めている。	傍に近水園があり、暖かい日には散歩に出かける。旧足守藩の歴史・文化を肌で感じることでできる環境である。家族が定期的に玄関の花を生けに来てくれたり、親戚の人が来てくれたりと、訪問しやすい雰囲気がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者さんが安心してお話が出来る環境を作ったり、孤立的な利用者さんが交流できる場を職員が提供したり、いい関係ができるような雰囲気に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移りサービスが終了していてもこれまでの家族との関係を大切にしつつ、他の事業所からの要望があれば、必要に応じて、ご家族の了解の下経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意向や気持ちを尊重し、ご本人が安心して望む暮らしができるように支援している。その為にはご家族から情報提供を頂きできるだけ要望に沿った支援ができるように取り組んでいる。	利用者の情報を細かくアセスメントできる様式は、これまでの暮らしぶりや人となりを理解しやすい。家族や本人からの希望なども反映できるように構成されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報による生活歴やサービス利用の経過などの把握に努め、安心して生活が引き続き行えるように支援していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの心身状態を把握し、一人一人が能力を生かせる場面を提供し、ご利用者様が生き生きと笑顔で取り組めるように心がけている。また、その時の様子を記録にて共有ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態が変わったり変化があればその都度話し合いを設け、ご本人の状況に合わせて介護計画を見直すように努めている。ご家族にも状況を伝え意見や希望を伺っている。毎月、モニタリングを行っている。	入居時に細かいアセスメントをして本人・家族の希望を聞き、カンファレンスした上で介護計画を立てている。状態が変化すれば計画を見直している。家族には毎月報告し要望なども聞き、モニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容、計画に基づいた取り組み、気づき等を記録し、職員間で情報の共有を図っている。状態の変化等あれば次回の計画見直しに活かせるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急で受診が必要な時は御家族に連絡を行い、その時の御家族の状況に合わせて柔軟な支援に努めている。入院時には家族の代わりに最後まで付き添い、その時に生じるニーズに合わせて支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し回覧板などで情報を共有している。また、小学校からの運動会、お祭りなども参加して暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設の医師や協力病院または、かかりつけ医の受診など適切な医療を受けられるように支援している。また、退院時には職員や看護師が同行し、今の状態を把握し退院後も安心できる体制を整えている。	かかりつけ医は殆どの利用者が母体病院であり、何かあった時には協力病院との協力体制もできている。看護師もいるので、異変時にはかかりつけ医との連携の下、早急な対応をしている。他科への受診もホームが行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中でいつもと状態が違えば看護師に報告し、看護師から先生に相談し、必要に応じて受診したり指示を仰ぎ適切な対応ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院をした場合には、病院側と連携し経過を伝えてもらったり、また、訪問を行い説明を受けたりと出来だけ早く退院ができるように病院関係者と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期においては、医師とスタッフが話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し関係者と一緒にチームで支援に取り組んでいく。	看取りについての指針を示し、家族に入居時等に重度化や終末期についての説明もしている。ただ、家族はできるだけホームで馴染みの関係の中で過ごさせて欲しいと望んでいる方が多いとのこと。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し職員が、いつでも閲覧できるよう掲示している。また、対応について職員は看護師からのアドバイスを受け実践力が身につけてきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害についての対応マニュアルを作成し、定期的に避難・消火訓練を実地している。非常時には地域の方も協力が得られるように体制が取れている。	防災訓練は定期的に行っている。昨年豪雨の際、裏山から水が溢れて、避難かということがあったが、地域の方の支援協力もあり事なきを得た。今後は災害マップなども活用しながら、非常時の体制について慎重に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切に、プライド気づけないような声かけや対応に気を付けている。各利用者様に関する情報が他の方に漏れないようにプライバシーの確保に努めている。	個人記録の保管方法は無論のこと、生活の中での様々な場面においての声掛けなどにも尊厳を損なわないように注意をはらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんと話をする中で思いを察し自己決定ができるような声掛けに努めている。言葉が出にくい時もアイコンタクトを取りながら思いに寄り添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々の生活リズムを大切に、スタッフ側の都合でなく利用者さん目線になり毎日の暮らしが出来るよう支援している。レク活動、入浴、ドライブなどご本人の意思決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に爪切りや耳掃除も行ない、二ヶ月に一度理容師さんに来てもらいカットやカラー等身だしなみに気をつけ、その人らしさが失われないよう快適な日常生活が過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間は大切なことと思い、環境や好みに合わせ提供できるように支援している。また、テーブル拭きや食器の片づけなどご本人の力量に合わせて支援している。	利用者それぞれの体調や気分に合わせて、無理なく一定量摂取できるように、時間をおいて声をかけるなど工夫をしている。訪問時も職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の心身状態を観察・把握し十分な栄養・水分の確保に努め健康管理を行っている。また、利用者様の健康状態に合わせた味付けや好みに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、うがいを徹底し清潔保持に努めている。入れ歯の消毒なども随時行い清潔な口腔状態が保てるよう支援し、また、一人ひとりの能力に合わせたケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態に添って時間を決めて声掛けをトイレ誘導を行っている。おしめの方でもサインが見られたらトイレで排泄を促したり必要に応じてPトイレも活用し個々のケアに努めている。	布の下着の方が2ユニット合わせて5名いる。声掛けや誘導もさりげなくスムーズにされていた。夜だけポータブルトイレを使う人など、個々に合わせた排泄の支援がされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い物や水分をしっかり促してい。運動や下剤の服用等便秘解消の為の工夫を行っている。また、毎日の排便チェック表を作成し個々の状態を把握し先生の指示の下、薬の調整を行い改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿った入浴を行い、入浴時間にもゆとりを持ってゆっくり楽しんで入浴できるよう支援をしている。体調がすぐれない時は日にちの変更も行い対応している。	入浴回数は週に3回、体調や希望によっては2回のこともある。利用者は重度の人も車椅子型リフトを使い、湯船に浸かることができ、楽しみにしている。介助する人もされる人も無理のない安心安楽な入浴である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとっての自然なリズムを尊重し、その日の状態に合わせて休息をしてもらったり、散歩したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬の内容、用法を理解し先生の指示のもと支援している。また、新たな薬の服用時には症状を確認し体調の変化を見逃さないように努めている。飲み忘れないよう声をかけ合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれが活躍できる場面を作り満足感と生きがいを感じて頂けるように支援していく。玉には気分転換にてドライブやお茶を飲みに出かけるなど楽しみが増すように努めていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの旅行で郊外にでかけ外食をしたり景色を楽しんだり普段いけない場所にも出かけ楽しんでいる。また、地域の行事を見学したりできるだけご本人の要望にあった支援ができるように努めている。	季候の良い時には、散歩に出かけて歴史ある街の面影の残る風情を感じたり、ドライブを楽しんだりしている。広い中庭での日向ぼっこや外気浴をして気分転換を図り、自然な体内リズムの調整を図るなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんの希望や力量に応じてお金を所持してもらい、買い物や外出先で使えるように支援し、社会性の維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛ける事が出来ない方がほとんどであるが、家族から電話があると、お話が出来るように支援している。お手紙が届いた時にはご家族の了解を得代読させてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは台所と一体になっており五感を感じ安心ができる空間になっている。また季節の花を生けたり壁面にも工夫するとともに、音や室内の温度などにも配慮し居心地よく過ごせるようになっている。	2ユニットは同じ造りではないが、食事をする場所、テレビなど見て団欒をする場所、また廊下の途中には、中庭の風景を見ながら一人を楽しむ場所などが配置されており、思い思いに過ごせるような配慮がある。季節に合わせ皆で作った壁飾りも彩を添えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場にはソファを置きテレビを見ながら気の合う仲間とゆったり団欒できるような居場所がある。また、個別に寛ぎたいときの空間も設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご利用様が寛げる空間でもあり、馴染の家具やご家族の写真などをご家族からお預かりし、安心して過ごせるように支援している。	居室の窓からは、裏山の竹林が見えたり、中庭のシンボルツリーが見えたりと、気分が落ち着く造りとなっている。これまでの生活の思いの詰まった写真や、小物類なども持ち込み、その人らしい居場所作りができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る力を見極めトイレや居室に名前をや目印をつけ位置関係にも配慮し不安や混乱なく苑の生活に馴染めるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑 B棟		
所在地	岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成31年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JiyosyoCd=3370105623-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成31年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲が自然豊かな環境の中、近隣には小学校や公民館・近水園(庭園)が立地しています。当苑は、地域の文化祭に参加したり、畑で育てた野菜を収穫するなど地域や自然とのふれあいを大切にしながら、その人らしさを保ち暮らしていただける支援に努めています。入居者の個性や活動に合わせた行事計画や地域行事の参加・散歩や買い物等の社会交流を図っています。また、一人ひとり利用者様が、ご家族の意向に沿った生活の実現を目指し個別性のあるケアの実践に努め、その人らしいサービスが提供できるよう取り組んでいる。また、医療面では、母体施設が医療法人でもあり、先生と連携し緊急時においても早期対応が出来る体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念のもと地域に開かれたグループホームであると共に、利用者様が孤立することなく地域社会の一員として生活できるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけている。また、地域の文化祭や催し物に参加し日頃から地域との交流を図っている。運営推進会議の場においても、地域住民の方と情報交換をし、気軽に交流できる方法などを話し合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩しお話を交したりすることで、その方の事を理解して下さり気軽に声もかけてくれている。また、運営推進会議のメンバーに地域代表1名、ご家族代表1名の参加がある為、参加者を通じて地域やご家族での認知症の理解を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族・地域包括センター・地域住民や御家族代表の方々に参加して頂き、それぞれの意見を聞きサービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターの方に参加して頂き、情報交換や相談など日頃から協力体制の構築に努めている。また、必要に応じて、その場で助言等をしてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に事業所の基本的考えを伝え、御家族に伝えている。また、年間研修計画に身体拘束についての研修が生まれ定期的な勉強会を行い、身体拘束の理解に努め利用者さんが自由に生活して頂けるよう配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が自由に閲覧できるよう事務所にマニュアルをかけた。また、虐待への理解を深めると共に虐待がないケアを心がけ虐待を見逃さない組織の取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では必要性のある利用者様はいないが、成年後見制度について学ぶ機会を持ち理解を深め、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者がご本人・御家族に詳しく説明をし理解・納得の上、同意書を頂いている。また、改定があった場合は、その都度、文書を公布し、御家族に説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に関係機関や苦情相談などを明記し。また、毎年、家族会を開催し苑の活動内容を報告すると共に、ご家族からの意見や要望を聞いている。毎月の報告書を発行し利用者様の日頃の様子を理解して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者等に報告・連絡・相談できる体制作りにも努めている。また、日々の業務での気づきやケアについての意見や提案を聞く機会を設けている。。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課表を用いて勤務状況を把握し自己評価をしている。それにより職員の実績、努力を認め、意欲向上に繋がるよう努めている。また、各職員にあった役割分担を決める事で各自が向上心を持ち働ける環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では看護師を交えて医療面や緊急時の対応等の研修会を行ったりしている。法人内・外の研修に関しては1人1人の能力を把握し、参加できる機会を代表者と共に連携し参加出来るように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる研修会等に参加し、その場で情報交換を行い、サービスの質の向上が図れる機会を作り法人全体で研修の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があれば2人以上で事前面談を行い生活状態の把握に努めている。また、馴染みの関係が作れるよう何度かお会いしたり、体験入苑等も実地して利用者様の不安が少しでも取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族で困っている事・要望にも出来るだけ応えられるよう話し合いを持ち気軽に相談できる窓口を設けている。また、御家族にも参加して頂く事で家族同士の交流が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や御家族の思い現在の状況をや相談をゆっくり聞き、信頼関係を築きながら必要とするサービスの支援を見極め他の事業所への必要性があればサービスの利用も含め対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見極めながら一緒に、お手伝いしていただいている。お互いを尊重し一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には家族とゆっくり過ごせる時間を提供している。必要があれば面会時には利用者様と一緒に会話に参加し近況状況を兼ねてコミュニケーションを図り一緒に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々や友人・身内の方の面会等気軽に立ち寄れる環境を整えている。いつでも来苑出来る場を作り関係が途絶える事がないよう、御家族と協力しながら支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が安心して関われる場を職員が間を取り持ちながら孤独感を感じず安心して過ごせるよう、支援している。時には職員が調整を行い安定した関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後も御家族から相談があれば丁寧に対応している。また、御家族とお会いした時は、様子を伺わせてもらったり良い関係作りが続けていけるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を聞いたり、常に利用者様の思いを聞くようにしている。また、御本人から確認出来ない場合は御家族からも情報を聞き御本人の思いや意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入苑前のご本人の生活歴・生活リズム・性格等の情報を収集し、可能であれば、ご本人からも情報収集をして、今まで大切にされてきた暮らしが継続できるよう配慮をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入苑者1人1人の生活リズムを理解し日々アセスメントを行いカンファレンスの場で検討し、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・御家族から要望や意見を伺いプランに反映されている。また、職員間で話し合い、その人らしいケアプランに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果など個別記録や日々のバイタルチェック表を使用し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。また、関わった対応については具体的内容を記録し実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急で受診が必要な時は御家族に連絡を行い、その時の御家族の状況に合わせて柔軟な支援に努めている。また、必要な時はショート利用が出来るよう機能強化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年度より地域の文化祭に利用者様が描いた絵を出品するなど、地域とのふれあいを大切に楽しみある暮らしを支援している。また、町内の溝掃除の参加や運営推進会議の場等で気軽に来苑し地域との共有を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族や医師と相談しながら、職員の付き添いや御家族の同行の受診等、スムーズな医療が受けられるように支援している。また、退院時には職員や看護師が同行し、今の状態を把握し退院後も安心できる体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の利用者様の状態を把握し状態の変化に応じた適切な支援が常に行えるよう申し送りを通じて状態報告を行い情報を共有している。また、訪問看護師にも報告、相談し適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様の情報提供と共に安心して過ごせるように職員が電話や面会等で情報交換を行っている。また、退院時には情報提供書を頂き今後のケアがスムーズに安心して行えるよう積極的な支援に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対する重度化の対応・終末期のケアの対応を定め、方針の共有に努めている。また、御家族や医師、職員と話し合いを行い、最後まで、その人らしい暮らしを支える為、今後のあり方を話し合うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に対応出来るように看護師を講師に内部研修を開催している。また、緊急時の対応マニュアルを作成し職員間で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した防火避難訓練を年2回実施している。また、運営推進会議の場において避難場所や避難方法を確認している。また、運営推進会議の場においても町内の方々の協力等の働きかけを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入苑者一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生き活きとした暮らしが出来るよう支援している。また一人ひとりの言葉かけや対応を日々のケアの中で活かせるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人の思いをくみ取り支援に活かしている。また、。意思表示の困難な方に対しては表情や仕草から思いや希望をくみ取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の状態や思いに配慮しながら、休みたい時間、食べたい物、着たい服など職員が寄り添い希望に沿った対応が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に爪切りや耳掃除も行ない身だしなみに気をつけ、その人らしさが失われないよう快適な日常生活が過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められた物があるが、時折、利用者様に食べたい物を聞きながら外食したり、お弁当にしたりと食事の楽しみを増やしている。また、体調に合わせた食事形態を提供し楽しく安全に食事ができる支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の心身状態を観察・把握し十分な栄養・水分の確保に努め健康管理を行っている。また、利用者様の健康状態に合わせた味付けや好みに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、うがいを徹底し清潔保持に努めている。入れ歯の消毒なども随時行い清潔な口腔状態が保てるよう支援し、また、一人ひとりの能力に合わせた口腔ケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を把握しトイレ誘導を行い、その人の能力に合わせた支援を行っている。失敗した場合は、シャワー浴や清拭を行い清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い物や食物繊維の物を使ったり、下剤の服用等便秘解消の為の工夫を行っている。また、毎日の排便チェック表を作成し個々の状態を把握し先生の指示の下、薬の調整を行い改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿った入浴を行い、入浴時間にもゆとりを持って楽しんで入浴できるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣を把握し状況によって自由に、居室で休息して頂いている。日中の環境や就寝前の雰囲気などにも配慮し十分な睡眠や休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの薬の内容、用法を理解し先生の指示のもと支援している。また、新たな薬の服用時には症状を確認し体調の変化を見逃さないように努めている。異変があれば、その都度、先生に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが自分に合った活動ができる場を提供し楽しみながら生き生きと暮らせるよう支援している。また、ドライブや買い物等、御本人の要望も聞き楽しみある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の旅行の機会を作り季節を感じられる場所に行ったり外食を楽しんでいる。入苑者の希望に添い出来るだけ時間を作り出掛けられるようにしている。旅行が困難な方でも日光浴や隣のユニットへ移動し気分転換を図る等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お子使いは苑で管理しているが、買い物や旅行等ご本人の希望や必要があれば、その都度、職員の支援の下、利用者様が自分で支払う事が出来るよう対応し御家族も理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけて頂いている。また、家族から電話があると、お話が出来るように支援している。お手紙が届いた時には読めない方に代弁しお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節の花鉢を置いたり職員が何時も見守る中で安心して過ごせる空間を作っている。また、利用者様の居室の飾り付けや自分持ちの馴染みの家具の配置等は自分好みに自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場にはソファを置きテレビを見ながら気の合う仲間とゆったり団欒できるようになっている。また、1人になりたい時には別場所でゆっくり自分のペースで過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔を懐かしめるような家具や品物・写真等で飾り付けをして心地よく生活して頂けるように努めている。また、出来る限り自宅での生活に近い環境で過ごして頂けるよう環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る力を見極めトイレや居室に名前をや目印をつけ位置関係にも配慮し不安や混乱なく苑の生活に馴染めるよう努めている。		